



保管用

一体型LEDベースライト iDシリーズ リニューアル専用 非常用照明器具（電池内蔵型）

<40形>

ライトバータイプ	品番
69001mタイプ	NNL(H)4605GN
52001mタイプ	NNL(H)4505GN
40001mタイプ	NNL(H)4405GN
32001mタイプ	NNL(H)4305GN
25001mタイプ	NNL(H)4205GN
20001mタイプ	NNL(H)4105GN

非常時LED一般出力型	適合器具本体
下面開放型W150	NNLG(H)41315
下面開放型W190	NNLG(H)41319
下面開放型W220	NNLG(H)41322
下面開放型W300	NNLG(H)41330
DスタイルW230	NNLG(H)41123
反射笠付型	NNLG(H)41117
iスタイル	NNLG(H)41109

<20形>

ライトバータイプ	品番
16001mタイプ	NNL(H)2106GN
8001mタイプ	NNL(H)2006GN

非常時LED一般出力型	適合器具本体
下面開放型W190	NNLG(H)21319
下面開放型W300	NNLG(H)21330

- ・上記（ ）内は加工品番です。以降、加工品番の記載を省略します。
- ・本照明器具は、パナソニック製非常用照明器具本体と非常用照明器具ライトバーの組み合わせで性能を満足します。
- ・適合器具本体と適合ライトバーの組み合わせは承認図、カタログを参照してください。
- ・適合器具本体と適合ライトバーは、非常用照明器具専用です。常用照明器具の器具本体、ライトバーとの組み合わせはできません。

（一般屋内用） ・器具の施工には電気工事士の資格が必要です。施工は必ず工事店に依頼してください。

施工説明 工事店様へ、この説明書は保守のためお客様に必ずお渡しください。

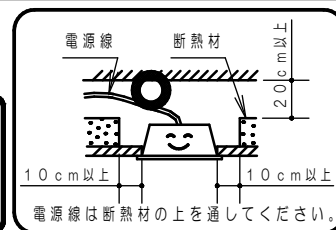
48時間充電後 ➡ 非常点灯の確認をしてください。

電池は設置後通電し、充電しないと非常点灯しません。

安全に関するご注意

警告

- 施工は、施工説明にしがい確実に行う。施工に不備があると落下・感電・火災の原因となります。
- 器具、光源部の分解、改造をしない。落下・感電・火災の原因となります。
- ライトバーを単独で使わない。必ずパナソニック製非常用照明器具本体（以降、本体）と非常灯専用ライトバー（以降、ライトバー）の組み合わせで使用。落下・感電・火災の原因となります。
- 表示された電源電圧（定格電圧±6%）、周波数で使用。指定外の電源電圧・周波数で使用すると感電・火災の原因となります。
- 水平天井直付専用です。他の取り付けはしないでください。落下の原因となります。
- 断熱材、防音材をかぶせて使わない。火災の原因となります。
- 非常用光源部のレンズはガラス製のため、取り扱いに注意。破損によるけがの原因となります。
- ライトバーが破損した状態で使わない。落下、感電、火災の原因となります。
- 蓄電池を短絡・分解したり火や水に投入しない。破裂・やけど・感電・火災の原因となります。



注意

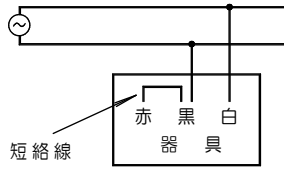
- この器具は一般屋内専用です。直射日光の当たる場所、雨水のかかる場所、風の強い場所、湿気の多い場所、腐食性ガスの発生する場所、振動の強い場所、外の風やエアコンの冷風が直接当たる場所では使用しないでください。落下・感電・火災の原因となります。
- 一般屋内でご使用の場合でも、器具周囲に硫黄成分が存在する場所では使用しないでください。光学性能に影響を与える場合があります。（一部の食品や薬品、紙類などには硫黄成分が含まれます。また、車の排気ガスにも硫黄成分が含まれます。）
- 周囲温度は、5～35℃で使用してください。指定外の周囲温度で使用すると、蓄電池の劣化、ちらつきや短寿命及び非常点灯しない原因となります。
- 寒冷地等で外気に通ずる場所に設置した場合、非常点灯時間が極端に短くなる恐れがあります。やむを得ず設置する場合は、非常点灯時間の点検を頻繁に行ってください。（少なくとも半年ごとの点検は必要）自己点検リモコン（別売）をご使用頂けると、点検が簡単となります。
- 電源方式により騒音（うなり）が大きくなる場合がありますので、以下の配線を行ってください。
 - ・三相電源を使用する場合は、必ず接地側を器具の端子台のN側に接続してください。
 - ・電源と器具間に片切りスイッチを設ける場合は、必ず非接地側（充電側）に取り付けてください。
- 電源と通電せずに、蓄電池を接続したまま放置しないでください。蓄電池の劣化や短寿命の原因となります。
- 48時間充電後、非常点灯の確認をしてください。充電しないと非常点灯しません。
- 器具の取り付け、取り外しは手袋などの保護具を使用してください。けがのおそれがあります。

⚠ 注意（続き）

- 器具の取り付け・取り外しは手袋など保護具を使用してください。けがのおそれがあります。
- 電源方式により騒音（うなり）が大きくなる場合がありますので、以下の配線を行なってください。
 - ・ 三相電源を使用する場合は、必ず接地極を器具の端子台のN側に接続してください。
 - ・ 電源と器具間に片切りスイッチを設ける場合は、必ず非接地側（赤線回路）に取り付けてください。
- この器具の電源は、専用回路にしてください。

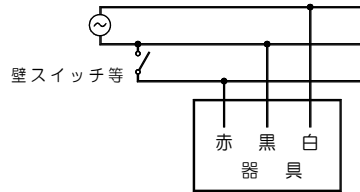
配線種類

・ 2線式（連続点灯する場合）



※短絡線は器具端子台に接続されています。

・ 3線式（壁スイッチ等で点滅操作する場合）



※器具端子台の短絡線を取り外して配線してください。

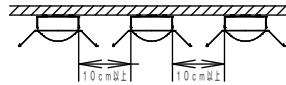
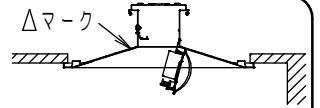
※壁スイッチは、赤線回路に設けてください。

※壁スイッチで消灯しても電池への充電は行なわれています。

- 電源を通電せずに、蓄電池を接続したまま放置しないでください。蓄電池の劣化や短寿命の原因となります。
- 寒冷地等で外気に通ずる場所に設置する場合、非常点灯時間が極端に短くなるおそれがありますので、非常点灯時間の点検を6ヶ月ごとに必ず行ってください。自己点検機能をご使用いただきますと、自動的に非常点灯時間の点検を行います。

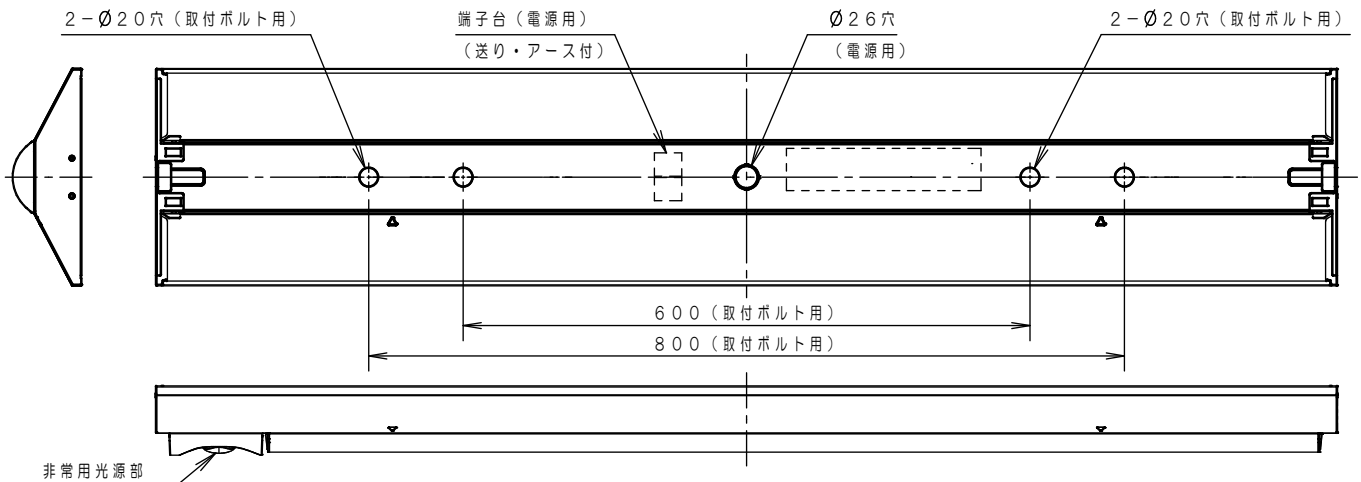
施工上のご注意

- ・ ライトバーの取り付けには方向性があります。壁面付近に取り付ける場合、本体の△マークを室内側にしてください。
- ・ 虫の飛来が多い場所で使用される場合は、ライトバー内に虫が侵入するおそれがあります。このような場合は、直管LED非常用照明器具などの器具をおすすめします。
- ・ エンド面には電源穴がありませんので、電源線の器具間送り配線は天井裏に電源線を戻して配線してください。
- ・ パーコドリーダーの機種によっては器具付近で使用した場合、読み取り感度が鈍くなることがあります。この場合には、器具との距離を離すか遮蔽するなどの対策を講じてください。
- ・ 漏洩電流値が、点灯時より無負荷時や片切消灯時の方が大きくなりますので、漏電警報機などの感度設定に注意してください。
- ・ 器具を密集して取付ないでください。密集させて取付けると、過熱により故障の原因となります。（反射笠付型、iスタイルの場合）また、プラスチックのきしみ音が発生する場合があります。



器具背面図

【NNLG41123の例で説明しています。】



- ・ 直付型の取付方法はP5を参照ください。

各部のなまえと取付方法◀埋込型の場合▶

(N：連結台数)

本体品番(単体)	H ボルト 引込しろ	【単体取付】 埋込穴寸法：W×L	【単体連結取付】 埋込穴寸法：W×(L)	P		【連結取付】 (加工品番のみ) 埋込穴寸法：W×(L)	P	
				器具取付ピッチ			器具取付ピッチ	
				600の場合	800の場合		600の場合	800の場合
NNLG41315	30~85	150X1235	150X(1254XN-20)	654	454	150X(1224XN+10)	624	424
NNLG41319		190X1257	190X(1274XN-20)	674	474	190X(1244XN+10)	644	444
NNLG41322	35~90	220X1235	220X(1254XN-20)	654	454	220X(1224XN+10)	624	424
NNLG41330		300X1257	300X(1274XN-20)	674	474	300X(1244XN+10)	644	444
NNLG21319	55~85※	190X639						
NNLG21330	60~90※	300X639						

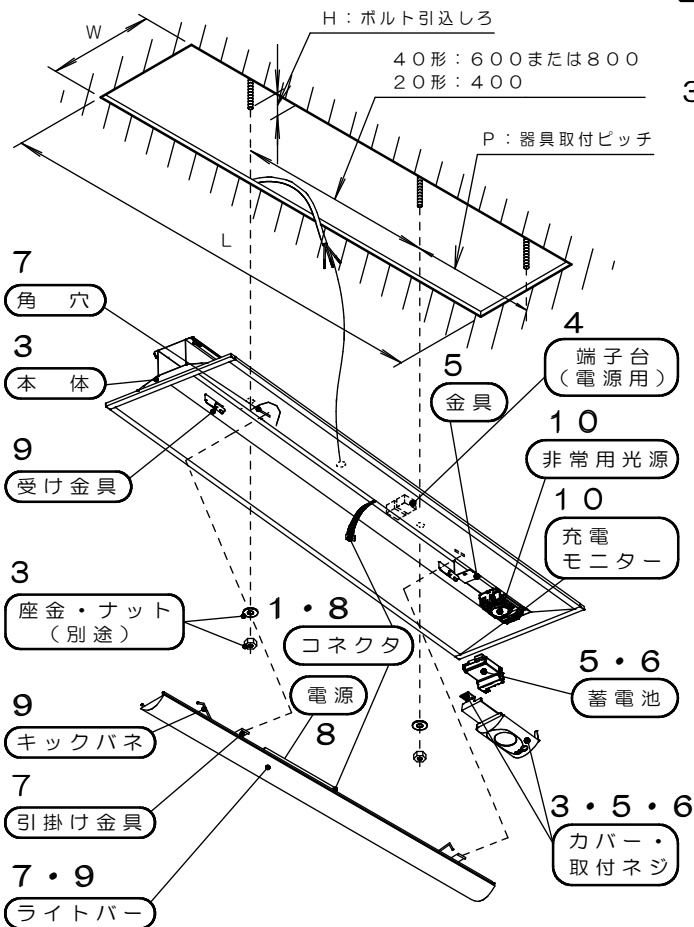
【20形の場合】 ※ボルト引込しろ推奨範囲はW190で55~75mm、W300で60~80mmです。
W190で75~85mm、W300で80~90mmの場合、施工は可能ですが、現場環境によっては施工しにくい場合があります。

警告

施工は、施工説明書にしたがい、確実に行う。
施工に不備があると、落下・感電・火災の原因となります。
ライトバーの取り付け・取り外しは必ず電源を切る。

施工上のご注意
電源線の器具間送り配線は電源穴から天井裏に戻して配線してください。

【NNLG41330+ライトバーの例で説明しています。】



1 取付前の確認

- 取設器具取替の場合、周辺機器の電気容量を確認する。
- 器具質量(4.4kg：NNLG41330+ライトバーの場合)に十分に耐えるよう、取付ボルトの強度・天井材の強度を確認する。(取付ボルトは、W3/8またはM10を使用する。)
- 不備があると器具落下・感電・火災の原因となります。
- 本体に仮止めしているコネクタを外す。

2 埋込穴の開口

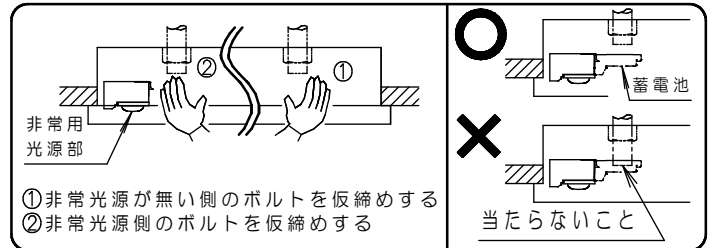
- 埋込穴、取付ボルトを上図のように用意しておく。
- ※詳細寸法は、上表を参照ください。

3 本体の取付

- 取付ネジをゆるめカバーを取り外す。
- 電源線、アース線を本体の電源穴から引き込んでおく。

【20形の場合】

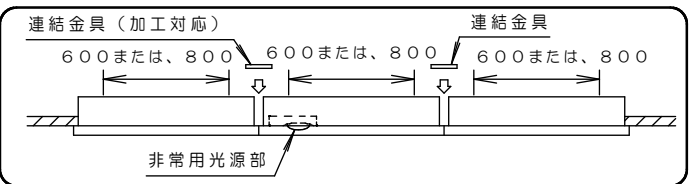
- 下記手順に従い、本体を取付ボルトで確実に取り付ける。



- 上表に記載されているボルト引込しろを守って下さい。
- 不備があると蓄電池と干渉し、落下・感電・火災の原因となります。

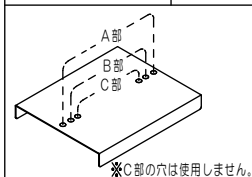
【(埋込型)単体連結の場合】

- 本体の外側に連結金具(NNFK91001(別途))をはめ込み、確実にネジ止める。
- 非常用光源部側の連結金具は、別途加工対応となります。
- あらかじめご了承ください。



本体、連結金具の取付穴組合せ

本体品番	連結金具 取付穴
NNLG41319	A部
NNLG41330	A部
NNLG41315	B部
NNLG41322	B部



- 本体を取付ボルトで確実に取り付ける。(取付ボルト推奨トルク値：0.6N・m)
- 取付穴は40形：12×20長穴、20形：φ20穴となります。適切な座金サイズをご使用下さい。
- 不備があると器具落下の原因となります。

各部のなまえと取付方法《埋込型の場合》（続き）

4 電源線・アース線の接続

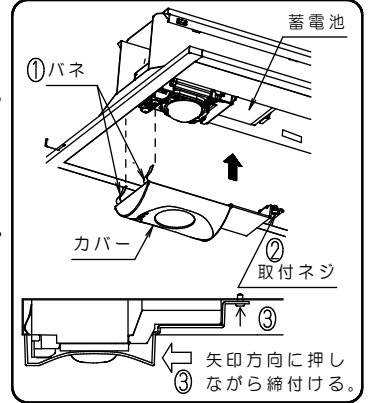
- 電源線、アース線を確実に差し込む。
- D種（第3種）接地工が必要。
- 端子台の最大送り容量は右表のとおりです。
- 接続が不完全な場合や容量オーバーの場合、火災の原因となります。

	明るさタイプ	容量
40形	6900lmタイプ	12A
	5200lmタイプ	13A
	4000lmタイプ	14A
	3200lmタイプ	20A
	2500lmタイプ	20A
20形	1600lmタイプ	20A
	800lmタイプ	20A

6 カバーの取付

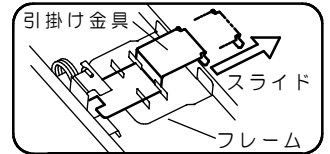
- ①パネを差し込む。
- ②取付ネジの位置を合わせる。
- ③カバーを矢印の方向に押しながら、取付ネジを確実に締付ける。

取り付けが不完全な場合、蓄電池落下の原因となります。



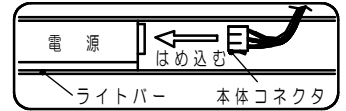
7 ライトバーの引掛け

- ライトバーの引掛け金具をフレームに当たるまでスライドさせ、本体の角穴に片側ずつ確実に引掛ける。
- 取り付けが不完全な場合、ライトバー落下の原因となります。



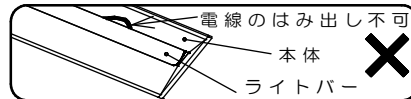
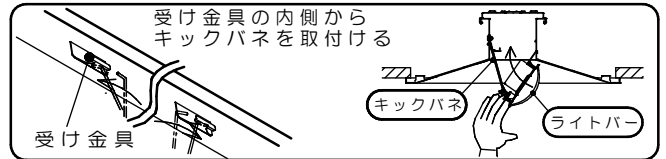
8 コネクタの接続

- 本体コネクタとライトバーを確実に接続する。
- 『カチッ』っと音がするまではめ込んでください。
- 接続が不完全な場合、火災の原因となります。



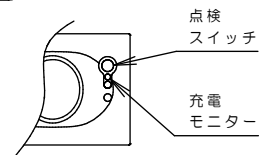
9 ライトバーの取付

- ライトバーのキックパネを本体の受け金具に確実に取り付ける。
- 電線を挟まないようライトバーを本体内へ押し上げる。
- 不備があると、ライトバー落下・感電・火災の原因となります。



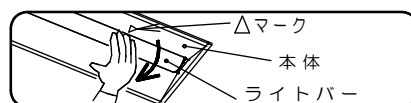
10 点灯確認

- 電源通電状態で、ライトバーおよび充電モニターが点灯するか確認する。
- 点検スイッチを押し、非常用光源が点灯することを確認する。（充電モニターは消灯します。）
- 正常に動作しない場合は「故障かな？と思ったときは」の頁を参照してください。
- 点灯確認後、長時間電源を通電しないときは蓄電池を外してください。
- 蓄電池の劣化や短寿命の原因となります。



■ライトバーを取り外す場合

1. 本体の△マークを目印に、手でライトバーを引き下げる。工具でこじ開けると、ライトバー破損の原因となります。
2. キックパネを本体の受け金具から外す。
3. コネクタを外す。
4. ライトバーの引掛け金具を本体から外す。



電源線接続後、余分な電源線はライトバーとの干渉を防ぐため電源穴へ押し戻すか、電源線をおさえて処理すること。

電源穴と端子台の間は曲げずにまっすぐに配線すること。

適合電線（単線）
 Ø1.6・Ø2.0
 ストリップ長
 10~14

押し戻す

○まっすぐ配線

✕曲がって配線

電源

送り

ライトバーの電源

余分な電源線を 器具外に戻せない場合、適切な長さに切断すること。不備があるとライトバーの電源と干渉し電源線損傷による感電・火災の原因となります。

5 蓄電池の取付

- 蓄電池には同形状で別品番があります。本体に表示の蓄電池品番を確認してください。
- ①蓄電池を本体の金具に引掛ける。
- ②非常灯ブロックのスリットと蓄電池の突起を合わせる。
- ③△刻印を確実に奥にささるまで押し込む。
- 取り付けが不完全な場合、非常点灯不良の原因となります。
- 電源通電までに長時間かかる場合は蓄電池を接続せず、通電後に蓄電池を接続してください。
- 蓄電池の劣化や短寿命の原因となります。

①蓄電池を本体の金具に引掛ける。

・見上げ図

金具

非常灯ブロック

側面図

金具

非常灯ブロック

蓄電池

②非常灯ブロックのスリットと蓄電池の突起を合わせる。

非常灯ブロック

蓄電池

突起

スリット

③△刻印を確実に奥にささるまで押し込む。

△刻印

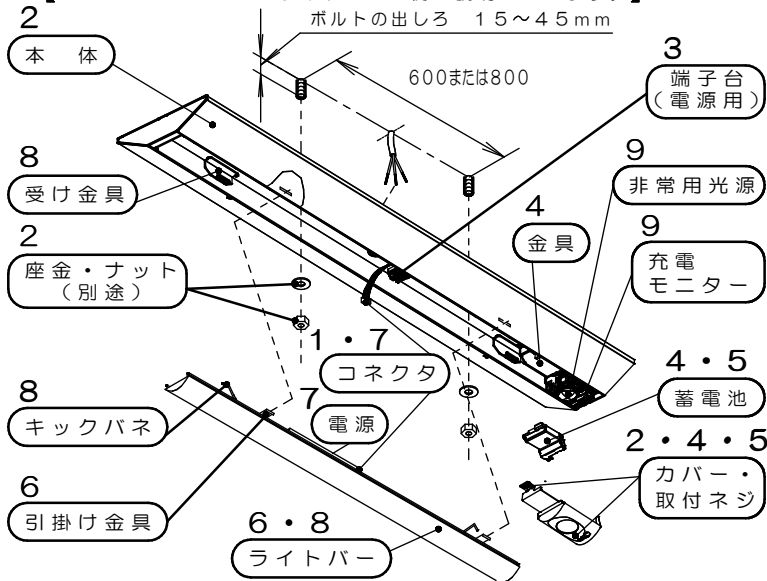
各部のなまえと取付方法《直付型の場合》



施工は、施工説明書にしたがい、確実に行う。
施工に不備があると、火災・感電・落下の原因となります。
ライトバーの取付・取外しは必ず電源を切る。

器具の取付・取外しは手袋など保護具を使用する。
けがのおそれがあります。

【NNLG41123+ライトバーの例で説明しています。】



1 取付前の確認

- ・既設器具取替えの場合、周辺機器の電気容量を確認する。
- ・器具質量（3.1kg：NNLG41123+ライトバーの場合）に十分に耐えるよう、取付ボルトの強度・天井材の強度を確認する。（取付ボルトは、W3/8またはM10を使用する。）
- ・不備があると器具落下・感電・火災の原因となります。
- ・本体に仮止めしているコネクタを外す。

2 本体の取付

- ・取付ネジをゆるめカバーを取り外す。
- ・電源線・アース線を本体の電源穴から引き込んでおく。
- ・本体を取付ボルトで確実に取り付ける。（取付ボルト推奨トルク値：1.5N・m）
- ・不備があると器具落下の原因となります。

3 電源線・アース線の接続

（埋込型の場合を参照）

4 蓄電池の取付

（埋込型の場合を参照）

5 カバーの取付

（埋込型の場合を参照）

6 ライトバーの引掛け

（埋込型の場合を参照）

7 コネクタの接続

（埋込型の場合を参照）

8 ライトバーの取付

（埋込型の場合を参照）

9 点灯確認

（埋込型の場合を参照）

取扱説明

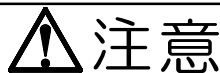
お客様へ、この説明書は必ず保管ください。

・ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくお使いください。

安全に関するご注意



- 器具、光源部の分解、改造をしない。落下・感電・火災の原因となります。
- 布や紙など燃えやすい物でおおわない。落下・感電・火災の原因となります。
- 万一、煙が出たり、異臭がするなどの異常が発生した場合、すぐに電源を切り、工事店に修理を依頼する。そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。
- 必ずパナソニック製iDシリーズ非常用照明器具本体と非常灯専用ライトバーとの組み合わせで使用。落下・感電・火災の原因となります。
- ライトバーの取り付け・取り外しは、必ず電源を切る。感電の原因となります。
- 充電モニタ（緑色）が点滅している場合、通電状態で蓄電池を交換してください。通電状態でない場合、充電モニタ（緑色）の点滅が正常（点灯状態）に戻りません。
- 製品に衝撃を与えない。破損した場合、感電・火災の原因となります。万一、破損した場合、すぐに電源を切り交換してください。
- ライトバーが破損した状態で使用しない。落下、感電、火災の原因となります



- 光源として高輝度LEDを使用しています。長時間の直視は避けてください。
- シンナー、ベンジン、アルカリ系洗剤で器具を拭かないでください。変色、変質、強度低下による破損の原因となります。水または中性洗剤を用いて、汚れた部分を軽く拭き取ってください。
- 照明器具には寿命があります。（※1）法令に基づいて定期的に点検を実施してください。点検せずに長時間使い続けるとまれに落下・感電・火災などに至る場合があります。
- 一年に一回は「安全チェックシート」に基づき自主点検してください。3年に1回は工事店等の専門家による点検を受けてください。必要な場合は弊社営業所へお申し出ください。（チェックシート番号：CLX2021HA）点検せずに長時間使い続けるとまれに落下・感電・火災に至る場合があります。
- 長時間器具を使用しない場合は、蓄電池は外してください。蓄電池の劣化や短寿命の原因となります。

※1 照明器具は、使用条件、使用環境で異なりますが、8~10年が取り換え時期の目安です。但し、蓄電池は、4~6年です。使用条件は周囲温度30℃です。

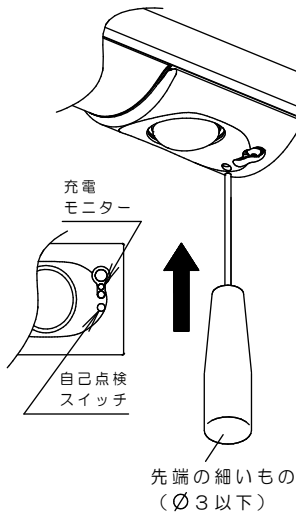
●LED光源の寿命は40000時間です。

周囲温度が高い場合・点灯時間が長い場合など寿命が短くなります。点灯出来るからといって継続して使用が可能というわけではありません。

充電モニターと自己点検スイッチについて

自己点検スイッチ

- 蓄電池の容量確認検査が行なえます。
(判定に30分かかります。)
- 先の細い(φ3以下)物で2秒以上押しと検査を開始します。
(充電モニター(緑)が消灯します。
検査終了後は自動的に復帰します。)
- ※必ず自己点検スイッチを押してください。
ほかの穴を押すと破損のおそれがあります。
- 自己点検スイッチの動作には、
48時間以上充電が必要となります。
(48時間以内に、3秒以上の停電・非常点灯があった場合は点検動作しません。)



充電モニター(緑)

蓄電池が充電されているか確認できます。
また自己点検“可”のお知らせをします。

	緑色点灯	正常です。
	点灯しない	<ul style="list-style-type: none"> 蓄電池が充電されていません。 非常点灯になっていないか、または、蓄電池が外れていないかを確認してください。 リモコンの「点検」スイッチまたは、「確認」スイッチを押した場合、点検“不可”をお知らせします。
	緑色点滅	蓄電池の交換時期の目安です。 蓄電池の容量低下や異常を緑点滅でお知らせします。
	約1秒間緑色点滅(4回)	リモコンの「確認」スイッチを押した場合、点検“可”をお知らせします。

自己点検用リモコンについて

適合リモコン品番：FSK90910K(別売)

スイッチ各部の名称と働き

「中断」スイッチ

点検動作を中断し、通常状態に復帰させるときに使用します。

1 「確認」スイッチ

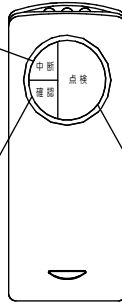
非常灯器具が48時間充電が完了しているかを確認するときに使用します。

チャンネル

使用時、チャンネルは「2」にセットしてください。
(チャンネル「1」は誘導灯用です。)

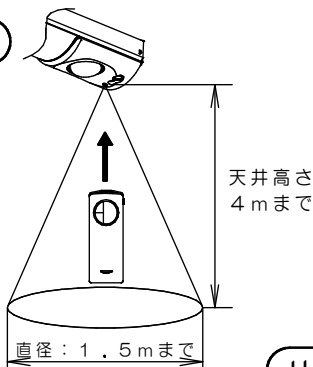
2 「点検」スイッチ

定格時間の非常点灯確認を開始します。
(器具本体の自己点検スイッチを押したときも同様です。)



リモコン操作エリアについて

リモコンを操作するときは点検する非常灯器具の真下からリモコンを非常灯器具に向けて送信してください。



リモコンによる点検方法

- チャンネルを「2」にセットしてください。
(チャンネル「1」は誘導灯用です。)
- 充電モニター(緑)が点灯していることを確認して下さい。

1	リモコンの「確認」スイッチを押してください。	<p>【器具本体の充電モニターを確認してください】</p> <ul style="list-style-type: none"> 充電モニター(緑)が約1秒間点滅(4回) ⇒ 点検準備ができています。2に進んでください。 充電モニター(緑)が約1秒間消灯 ⇒ 点検準備ができていません。 48時間以上充電してください。
2	リモコンの「点検」スイッチを押してください。	<p>【器具本体の充電モニターを確認してください】</p> <ul style="list-style-type: none"> 充電モニター(緑)が消灯(非常点灯に切り換わります。) ⇒ 3に進んでください。
3	蓄電池の容量確認が行なえます。 (判定に30分かかります。)	<p>【器具本体の充電モニターを確認してください】</p> <ul style="list-style-type: none"> 充電モニター(緑)が点灯 ⇒ 正常です。 充電モニター(緑)が点滅 ⇒ 蓄電池の交換時期です。

- 途中で点検を中断する場合、
リモコンの「中断」スイッチを押してください。
- 【器具本体の充電モニターを確認してください】
- 充電モニター(緑)が点灯(通常状態に戻ります。)

リモコンスイッチと器具状態の対応表

	器具の状態		
	充電中 (充電時間48時間未満)	充電完了状態 (充電時間48時間以上)	点検中
「点検」スイッチ	充電モニター(緑) 約0.5秒間消灯 (光源が点灯)(注)	点検開始 (充電モニター(緑) 点灯⇒消灯)	(充電モニター(緑) 消灯したまま)
「中断」スイッチ	(充電モニター(緑) 点灯したまま)	(充電モニター(緑) 点灯したまま)	点検中断 (充電モニター(緑) 消灯⇒点灯)
「確認」スイッチ	充電モニター(緑) 約1秒間消灯 (注)	充電モニター(緑) 約1秒間点滅(4回) (注)	(充電モニター(緑) 消灯したまま)

— の場合は充電モニターの状態に変化はありません。

(注) リモコンスイッチを押し続けると上記の状態を繰り返します。
(例：「確認」スイッチを押し続けると、充電モニター(緑)が点滅し続けます。)

※中断した場合は、再度48時間充電が必要です。

使用上のご注意

- ・ラジオ、テレビや赤外線リモコン方式の機器は照明器具から離して使用してください。雑音が入ったり、正常に動作しない場合があります。
- ・同時通訳機などの誘導無線を使用される場合、雑音が入る場合があります。事前に確認し、対策を講じてください。
- ・周囲温度が高い場合・点灯時間が長い場合などは寿命が短くなります。
- ・LED素子にはばらつきがあるため、同じ品番のライトバーでも光色・明るさが異なる場合があります。あらかじめご了承ください。
- ・点灯させる際に、明るくなるまでの時間や動作がライトバーの品種により異なる場合があります。あらかじめご了承ください。
- ・電源電圧変動などの影響により瞬間的に明るくなったり暗くなったりする場合があります。あらかじめご了承ください。
- ・点灯直後・消灯直後にプラスチックの伸縮によるきしみ音が発生する場合がありますが、故障や異常ではありません。静かな環境や密集取り付けでご使用の場合、きしみ音が気になる場合があります。このような場合は直管LEDなどのプラスチック製カバーのないタイプをおすすめします。

保証について

- ・保証について・・・・・・この商品の保証期間は1年間です。ただし、LED電源は3年間です。詳細は弊社カタログを参照してください。
- ・保証書について・・・・・・保証書が必要な場合は、弊社代理店または弊社営業所へ申し出てください。
- ・補修用性能部品の・・・・・・弊社はこの照明器具の補修用性能部品（電気部品）を製造打ち切り後、6年間保有しています。保有期間 補修用性能部品には、同等機能を有する代替品を含みます。

お手入れ・部品交換

- ・器具の清掃について・・・・・・水または中性洗剤を用いて、汚れた部分を軽く拭き取ってください。シンナー、ベンジン、アルカリ系洗剤で拭かないでください。変色・変質、強度低下による破損の原因となります。

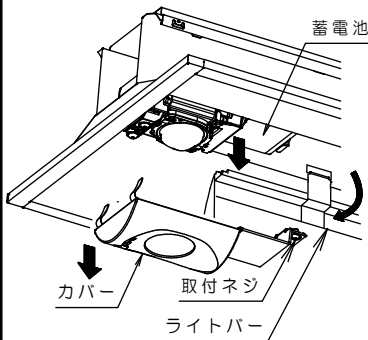
- ・蓄電池交換方法・・・・・・下図を参照のうえ確実に行ってください。

蓄電池	
非常時LED一般出力型	FK792 (4.8V 1200mAh)

警告

- 器具の清掃時は、必ず電源を切ってください。（2線式配線の場合、非常点灯します。）感電のおそれあり。
- ライトバーのカバーは樹脂製です。取り扱いに注意してください。カバー破損のおそれあり。
- 非常用光源部のレンズはガラス製です。取り扱いに注意してください。レンズ破損のおそれあり。
- 点灯中や消灯直後はライトバーやその周辺をさわらないこと。やけどのおそれあり。

- ・充電モニタ（緑）が点滅している場合、通電状態で蓄電池を交換してください。点滅が解除されます。無通電状態で蓄電池を交換した場合は充電モニタ（緑）の点滅が解除されません。



3線式配線の場合、常用光ユニットの電源（壁スイッチなど）を切って作業してください。
2線式配線の場合、常用光ユニットが点灯したままとなりますので、光源を直視しない、手袋など保護具を使用し直接光源部に触らないよう安全に配慮してください。

- 1 ライトバーを仮吊り状態にする。（左図参照）
- 2 取付ネジをゆるめ、カバーを真下に引き下げる。
取付ネジをゆるめずカバーを引き下げた場合、カバーおよびバネ変形の原因となります。
- 3 蓄電池を外す。
・蓄電池の側面を真下に引き下げる。
- 4 蓄電池を取り付ける。
・4ページの「5 蓄電池の取付」と同じ手順で確実に取り付ける。
取り付けが不完全な場合、非常点灯不良の原因となります。
- 5 カバー、ライトバーを取り付ける。
・4ページの「6 カバーの取付」～「9 ライトバーの取付」の手順に従って確実に取り付ける。

電池内蔵型器具は性能維持のため、6ヶ月に1回は非常点灯への切り替え、非常点灯時間の確認を必ず行ってください。

（常に適正な状態に維持するために、法令※で定められた定期的点検に加え、上記点検の実施をお願いします。非常点灯が極端に短くなるおそれがあります。）

※誘導灯は消防法令、非常用照明器具は建築基準法令に定められています。

◆設置年月日 年 月 日 ◆取付場所 _____ ◆器具No. _____

点検年月日	点検状態		点検者	点検年月日	点検状態		点検者	点検年月日	点検状態		点検者
	外観	機能			外観	機能			外観	機能	

故障かな?と思った時は

・表にしたがって調べていただき、なお異常がある場合は、すぐに電源を切り、工事店に修理を依頼してください。

現象	考えられる原因	処置
常時、ライトバーが点灯しない。	消灯スイッチOFF	スイッチをONする。
非常点灯しない。	蓄電池が接続されていない。	蓄電池を接続する。
短時間しか点灯しない。 (30分未満)	AC電源が通電状態となっていない。	AC電源を通電状態とする。
	蓄電池の充電不足 (保管時の自然放電や、施工時の放電など)	48時間以上充電する。
充電モニターが点灯しない。	蓄電池の寿命	蓄電池を交換する。
	蓄電池が接続されていない。	蓄電池を接続する。

器具定格・接続図

仕様

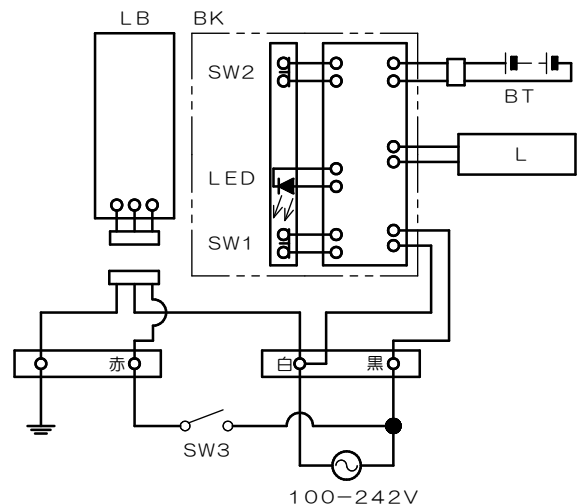
40形

明るさタイプ	6900lmタイプ 非常時LED一般出力型		
	定格電圧	AC100V	AC200V
入力電流	0.440A	0.220A	0.182A
消費電力	44.0W		
明るさタイプ	5200lmタイプ 非常時LED一般出力型		
	定格電圧	AC100V	AC200V
入力電流	0.334A	0.167A	0.139A
消費電力	33.4W		
明るさタイプ	4000lmタイプ 非常時LED一般出力型		
	定格電圧	AC100V	AC200V
入力電流	0.276A	0.138A	0.115A
消費電力	27.6W		
明るさタイプ	3200lmタイプ 非常時LED一般出力型		
	定格電圧	AC100V	AC200V
入力電流	0.215A	0.108A	0.089A
消費電力	21.5W		
明るさタイプ	2500lmタイプ 非常時LED一般出力型		
	定格電圧	AC100V	AC200V
入力電流	0.172A	0.090A	0.078A
消費電力	17.2W		
明るさタイプ	2000lmタイプ 非常時LED一般出力型		
	定格電圧	AC100V	AC200V
入力電流	0.140A	0.073A	0.063A
消費電力	14.0W		

20形

明るさタイプ	1600lmタイプ			800lmタイプ		
	定格電圧	AC100V	AC200V	AC242V	AC100V	AC200V
入力電流	0.129A	0.072A	0.065A	0.074A	0.046A	0.043A
消費電力	12.6W	12.7W	12.8W	7.1W	7.3W	7.5W
突入電流	1.7A	4.6A	5.7A	1.2A	3.3A	4.2A

接続図



部品の記号と名称

LB: ライトバー	SW1: 点検スイッチ
BK: ブロック	SW2: 自己点検スイッチ
BT: 蓄電池	SW3: 常用消灯スイッチ
L: 非常灯LED	LED: 充電モニター



Ni-MH

この器具には、ニッケル水素蓄電池を使用しています。

ニッケル水素電池は、リサイクル可能な資源です。ニッケル水素電池の交換、およびご使用済の電池の破棄に際しては、ニッケル水素電池を取り出しリサイクルにご協力ください。

パナソニック株式会社 ライティング事業部 〒571-8686 大阪府門真市門真1048

お問い合わせ先 パナソニック 照明器具・ランプ商品ご相談窓口 <https://sumai.panasonic.jp/support/>

0120-187-441(フリーダイヤル)【受付時間】月~土/9:00~18:00(祝日・三が日を除く) ※携帯電話からもご利用になれます。

0120-872-460(FAX) Help desk for foreign residents in Japan Tokyo (03) 3256-5444 Osaka (06) 6645-8787 Open: 9:00 - 17:30 (closed on Saturdays / Sundays / national holidays)

MN0721-040923